

## 女子大学生の貧血に関する研究(第2報)

## 血液値の変動について

名古屋女大生研 熊沢昭子 ○鶴見智恵

**目的**若い女性の貧血は将来母性への影響をもたらすことにもなりかねないのでさあざりにできない。前報では、女子大生の貧血状況を調べ、生活環境ながらも食生活との関連を明らかにしたが、今回はそれに加えて血液値の変動について検討した。

**方法**対象は名古屋女子大学学生1~4年次まで昭和52年度500名、53年度540名、54年度424名計1464名とした。ヘモグロビン(Hb)値を測定し、WHOの判定基準12.0g/dl以下の者を貧血とした。12.0g/dl以下の者には、貧血の種類を確めるために精密検査を実施し、さらに血液の経日変動を明らかにするため15名について2週間ごとに5回、赤血球(RBC)、白血球(WBC)、Hb、ヘマトクリット(Ht)、全血比重(Gb)の検査を行った。なお3日の食物摂取状況を調査した。

**結果**貧血出現率は52年度19%、53年度13%、54年度13%であった。54年度のHb値の低い者は対象者424名中11.0~11.9g/dlは29名、11.0g/dl以下は8名であった。また貧血の種類はHbやHt、血清鉄が低値を示し、総鉄結合能や不飽和鉄結合能が高い値を示すところから鉄欠乏性貧血であることが認められた。血液値相互の関連をみるとHbとHt、Gbなどに正相関がみられた。個人別経日変動については、月経後や学外実習後に血液値が特に低下する傾向はみられなかった。15名について元管理図により分布の平均値の変化および各管理図による分布のバラツキの変化を検討した結果いずれも管理限界内にあり、異常原因を示唆する所はみられなかった。貧血者の血液値と摂取栄養素量の関連をみると鉄摂取量とHb値、Ht値の間に正相関が認められた。